

## II 調査結果の概要

### 1 総括

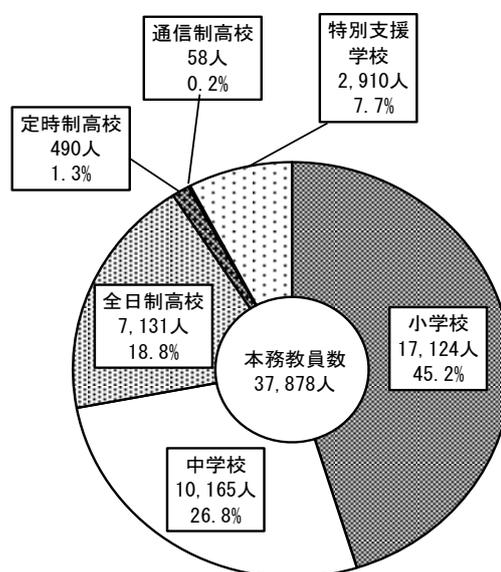
平成28年10月1日現在の県内公立学校の本務教員数は、37,878人でした。

学校種別教員数をみると、小学校の教員数が最も多く、45.2%を占めています。以下、中学校が26.8%、全日制高等学校が18.8%、特別支援学校が7.7%、定時制高等学校が1.3%、通信制高等学校が0.2%でした。

男女別構成比をみると、男性教員の割合が最も高いのは定時制高等学校で76.9%、女性教員の割合が最も高いのは小学校で61.6%でした。

年齢構成をみると、20歳代の割合が最も高いのは小学校で22.7%でした。以下、30歳代も小学校で29.1%、40歳代は定時制高等学校で21.0%、50歳代は通信制高等学校で74.1%、60歳以上も通信制高等学校で12.1%でした。

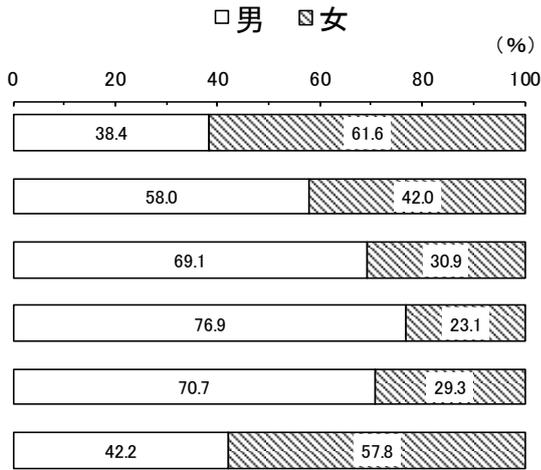
第1図 学校種別教員数



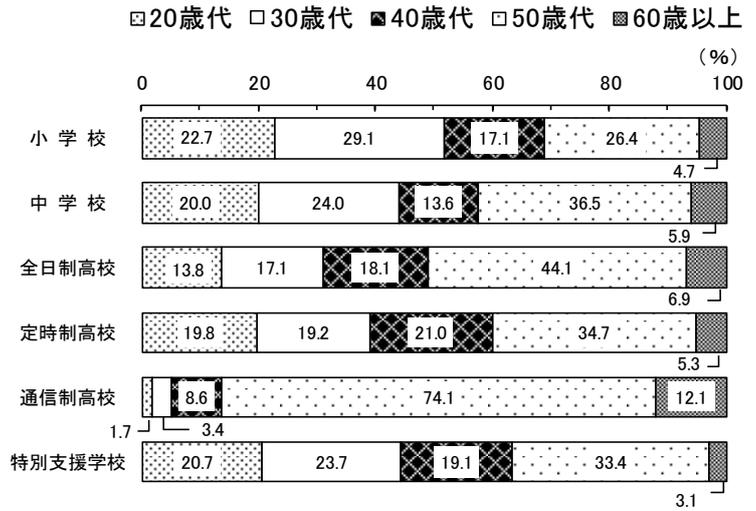
第1表 本務教員数、平均年齢及び男女比

区分	本務教員数（人）			平均年齢（歳）			男女比（%）			
	平成28年度	平成25年度	増減	平成28年度	平成25年度	増減	平成28年度	平成25年度	増減	
合計	計	37,878	37,437	441	43.1	44.6	△1.5	100.0	100.0	-
	男	19,055	18,939	116	44.5	46.1	△1.6	50.3	50.6	△0.3
	女	18,823	18,498	325	41.8	43.2	△1.4	49.7	49.4	0.3
小学校	計	17,124	17,224	△100	41.4	43.2	△1.8	100.0	100.0	-
	男	6,581	6,523	58	42.2	43.9	△1.7	38.4	37.9	0.5
	女	10,543	10,701	△158	40.9	42.8	△1.9	61.6	62.1	△0.5
中学校	計	10,165	9,985	180	43.8	45.2	△1.4	100.0	100.0	-
	男	5,898	5,877	21	44.6	46.5	△1.9	58.0	58.9	△0.9
	女	4,267	4,108	159	42.6	43.5	△0.9	42.0	41.1	0.9
高等学校計	計	7,679	7,573	106	46.4	47.2	△0.8	100.0	100.0	-
	男	5,349	5,391	△42	47.3	48.2	△0.9	69.7	71.2	△1.5
	女	2,330	2,182	148	44.2	44.9	△0.7	30.3	28.8	1.5
全日制	計	7,131	7,017	114	46.5	47.3	△0.8	100.0	100.0	-
	男	4,931	4,949	△18	47.5	48.3	△0.8	69.1	70.5	△1.4
	女	2,200	2,068	132	44.2	44.9	△0.7	30.9	29.5	1.4
定時制	計	490	496	△6	43.7	45.9	△2.2	100.0	100.0	-
	男	377	400	△23	44.0	46.2	△2.2	76.9	80.6	△3.7
	女	113	96	17	43.0	45.0	△2.0	23.1	19.4	3.7
通信制	計	58	60	△2	54.4	53.8	0.6	100.0	100.0	-
	男	41	42	△1	55.8	55.3	0.5	70.7	70.0	0.7
	女	17	18	△1	51.1	50.4	0.7	29.3	30.0	△0.7
特別支援学校	計	2,910	2,655	255	42.7	44.3	△1.6	100.0	100.0	-
	男	1,227	1,148	79	44.4	46.2	△1.8	42.2	43.2	△1.0
	女	1,683	1,507	176	41.5	42.9	△1.4	57.8	56.8	1.0

第2図 学校種別教員の男女比



第3図 学校種別教員の年齢構成

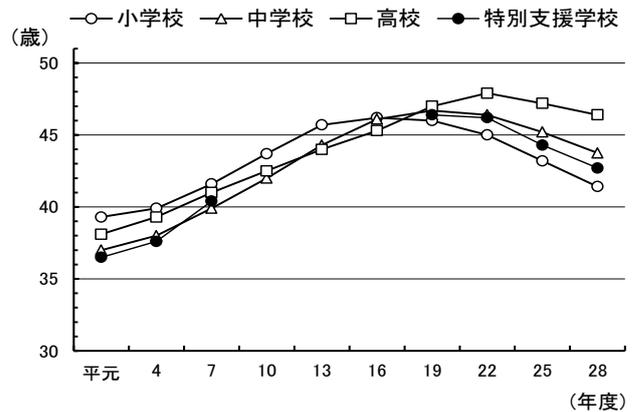


2 平均年齢の推移

学校種別に教員の平均年齢をみると、小学校の41.4歳が最も低く、次いで、特別支援学校の42.7歳、中学校で43.8歳、高等学校（全日制、定時制及び通信制の合計）で46.4歳でした。

平成28年度と平成25年度の教員の平均年齢を比較すると、全ての学校種で平均年齢が低下しました。

第4図 学校種別教員の平均年齢の推移



第2表 学校種別教員の平均年齢の推移

(単位: 歳)

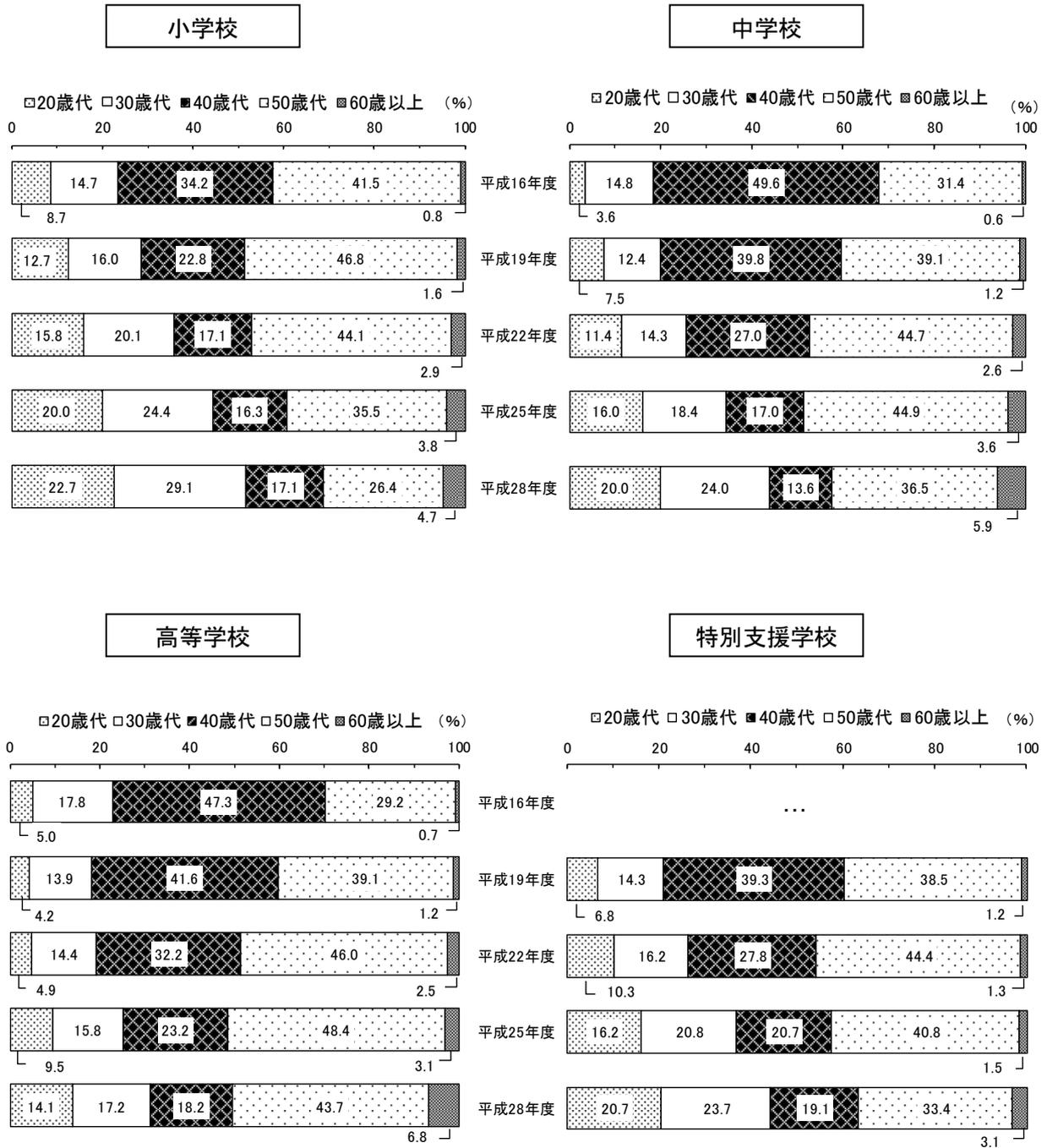
年度	小学校			中学校			高校(全・定・通)			特別支援学校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成元	41.6	37.9	39.3	38.0	35.2	37.0	38.6	36.2	38.1	37.9	35.3	36.5
4	41.5	39.0	39.9	38.9	36.6	38.0	39.8	37.6	39.3	38.8	36.7	37.6
7	42.6	41.0	41.6	40.7	38.5	39.9	41.6	39.0	41.0	41.5	39.4	40.4
10	44.3	43.4	43.7	42.7	40.8	42.0	43.1	40.4	42.5	...	...	...
13	46.1	45.5	45.7	45.1	43.0	44.3	44.7	41.9	44.0	...	...	...
16	46.5	46.1	46.2	47.0	44.5	46.1	46.2	42.7	45.3	...	...	...
19	46.7	45.6	46.0	47.9	44.7	46.7	48.0	44.2	47.0	47.7	45.2	46.4
22	45.4	44.7	45.0	47.9	44.3	46.4	49.0	45.0	47.9	47.8	44.9	46.2
25	43.9	42.8	43.2	46.5	43.5	45.2	48.2	44.9	47.2	46.2	42.9	44.3
<b>28</b>	<b>42.2</b>	<b>40.9</b>	<b>41.4</b>	<b>44.6</b>	<b>42.6</b>	<b>43.8</b>	<b>47.3</b>	<b>44.2</b>	<b>46.4</b>	<b>44.4</b>	<b>41.5</b>	<b>42.7</b>
対平成25年度	△1.7	△1.9	△1.8	△1.9	△0.9	△1.4	△0.9	△0.7	△0.8	△1.8	△1.4	△1.6

※ 平成10、13及び16年度の特別支援学校については公表されていない。

### 3 年齢構成の推移

平成16年度からの年齢構成の推移をみると、全学校種で40歳代の割合が大幅に減少しています。50歳代の割合も全学校種で減少に転じています。20、30歳代及び60歳以上の割合は、全学校種で増加しています。

第5図 年齢構成の推移

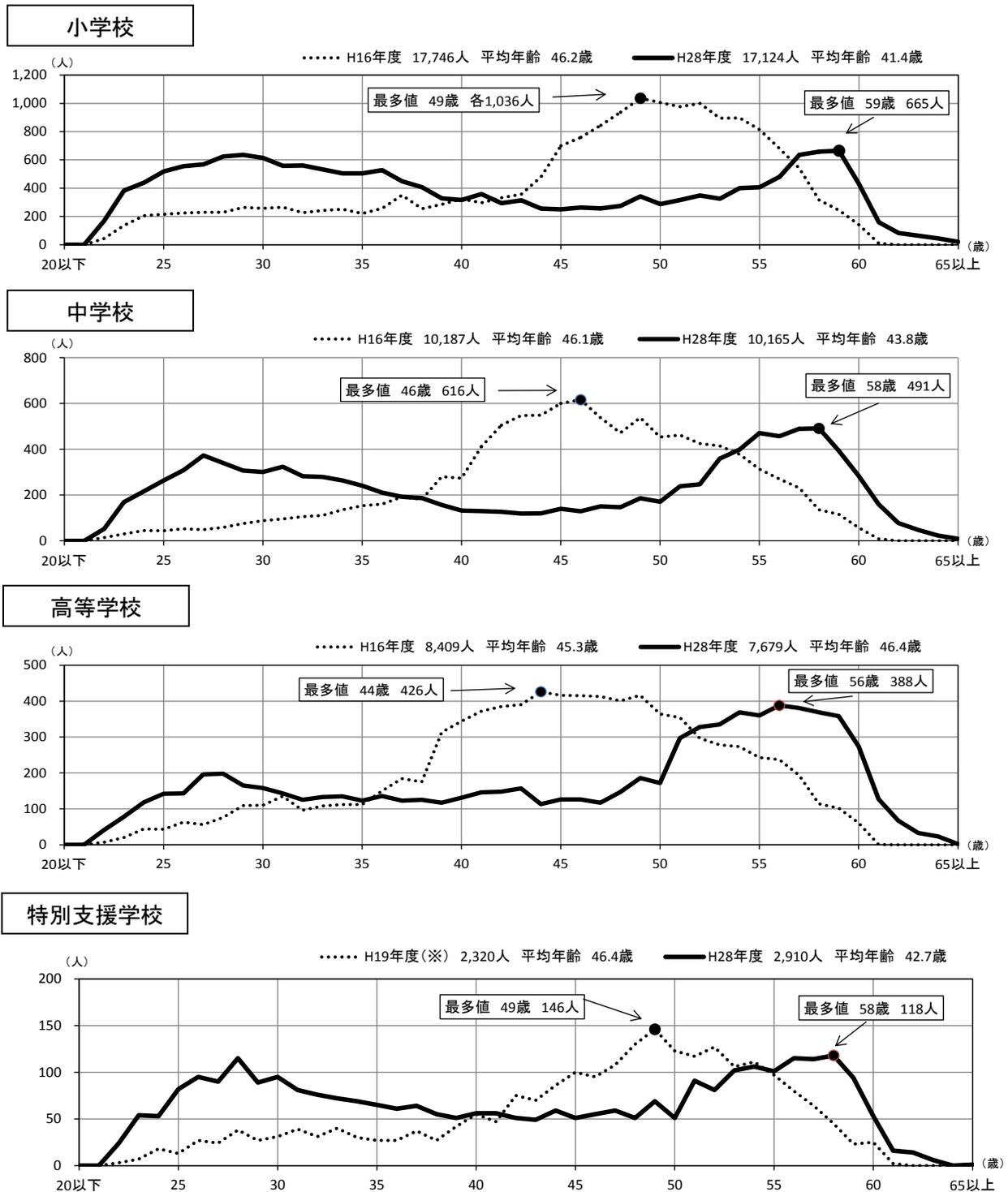


※ 特別支援学校の平成16年度の年齢別本務教員数は公表されていない。

平成16年度（特別支援学校は平成19年度、以下、同様）と今回の調査結果を年齢別に比較しました。

平成16年度は、どの学校種も40歳代に人数のピークがありますが、今回の調査結果では、50歳代に移っています。また、小学校及び中学校では、20歳代から30歳代半ばの人数が増加しており、高等学校及び特別支援学校では、30歳代半ばから40歳代半ばまでの人数がほぼ均衡しています。

第6図 年齢別教員数の推移（平成16年度との比較）



※ 特別支援学校の都道府県別年齢別本務教員数は、平成19年度から公表開始

#### 4 地域別市町村立小・中学校の状況

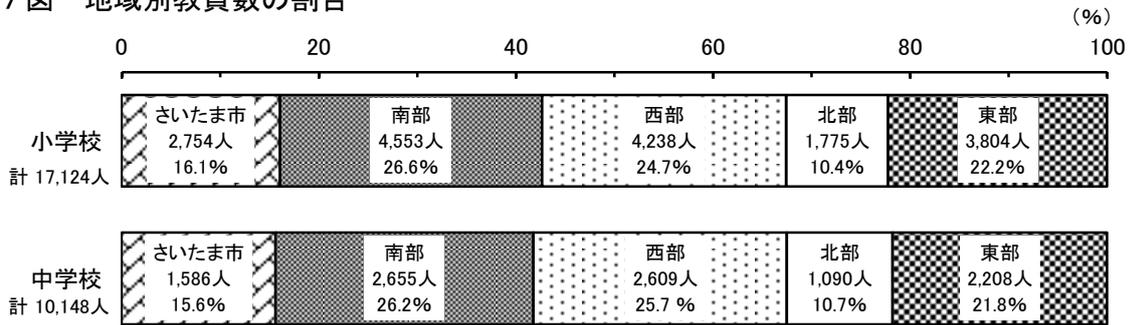
地域別に教員数をみると、最も人数が多いのは、小学校が南部教育事務所管内で全体の26.6%、中学校でも南部教育事務所管内で、26.2%でした。

20歳代の割合が最も高いのは、小学校では東部教育事務所管内で25.0%、中学校では南部教育事務所管内で22.9%でした。

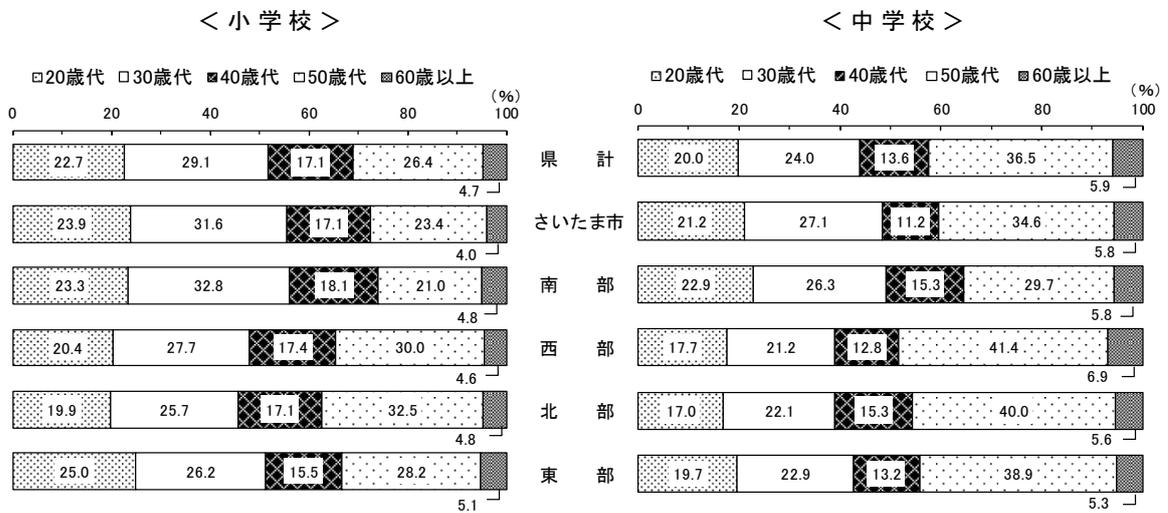
教員の平均年齢が最も低いのは、小学校が南部教育事務所管内で40.3歳、中学校でも南部教育事務所管内で42.2歳でした。最も高いのは、小学校が北部教育事務所管内で42.9歳、中学校が西部教育事務所管内で45.2歳でした。平均年齢の最高と最低の差は、小学校が2.6歳、中学校が3.0歳でした。

※ 市町村の地域については、8ページを参照してください。

第7図 地域別教員数の割合



第8図 地域別教員の年齢構成



第9図 地域別教員の平均年齢

